

ライトニング・トーク

子どもの健康は誰がどう守るか

—インドネシアの小児歯科衛生環境と医療保険制度の観点から—

Who Protects Children's Health and How?: Perspectives of Pediatric Dental Hygiene and Health Insurance Systems in Indonesia

宮浦 智樹 (東京農業大学第一高等学校)

Tomoki Miyaura (The First High School, Tokyo University of Agriculture)

近年、インドネシアでは堅調な経済成長に牽引され、砂糖の消費が年々拡大している。特に、子育て中の家庭における飲食が旧来の伝統的な内容から、砂糖を多く含有する簡便な加工品に代替され、幼いうちから子供が砂糖の影響を受けるようになった。これにより児童の糖尿病、腎不全、虫歯といった問題が深刻化している。混沌を極めていた旧来の公的健康保険制度の一本化を中心とする改革に伴い、2014年に運用がスタートした「BPJS Kesehatan」については、システムそのものへの高い注目度の一方で、医療・保険制度が誘起する社会問題に関して十分に議論されていない。そこで、小児の健康問題の中でも特に幼少期の発症が将来的な健康に影響する口腔衛生に注目し、「経済状況により医療・保険制度のサービス、特に小児歯科衛生プログラムの享受に格差がある」という仮説を立て、2023年8月に予備調査、2024年8月にフィールドワークによる聞き取りおよびアンケート調査を行った。調査地は、西ジャワ (ボゴール県、チアンジュール県)、中部ジャワ (ジョグジャカルタ特別州) およびバリ (タバナン県) である。現地視察は Posyandu・私立 TK・私立歯科医院・公立総合病院において、インタビュー調査は Posyandu のスタッフ・公立病院の歯科医師・公立病院の看護師・私立 TK の教員・現地の行政職員に対して行った。また、子を持つ保護者へのアンケート調査を対面およびオンラインで実施した (回答数計 171、うちオンラインは全インドネシア地域対象で 64)。その結果以下のことが認められた。すなわち、1) 農村部と都市部での大きな家庭間経済・教育格差の存在、2) 地域による医療機関 (特に歯科医療) へのアクセス機会の大きな差、3) 農村部での政府の意に反した医療システム (BPJS と医療機関における歯科医の数) の機能不全、4) 農村部の Posyandu の栄養失調の予防が主で、歯科衛生はあまり問題視されていない健康診断、5) 都市部に限定された専門的な小児歯科技術を有する私立クリニックの存在と、そこに通う保護者の予防歯科の意識の高さである。